

# 青年招へい事業

韓国

[交流レポート]

## 청년 초청 사업

한국

[교류 보고서]

JICA LIBRARY



1188639 [7]

2001

国際協力事業団

JICA

110

36

DPT

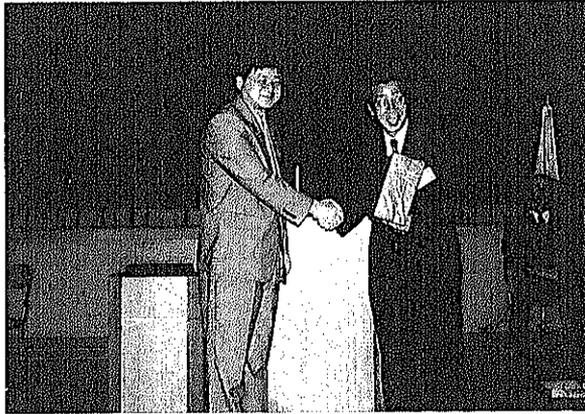
LIBRARY

国内研

J R



## 開講式／개강식



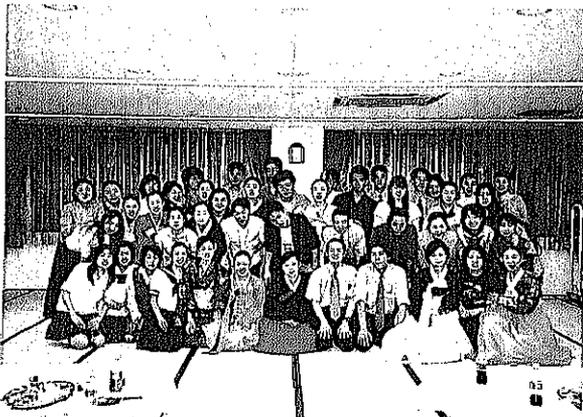
## 共通プログラム／공통 프로그램



分野別都内プログラム／분야별 도내 프로그램

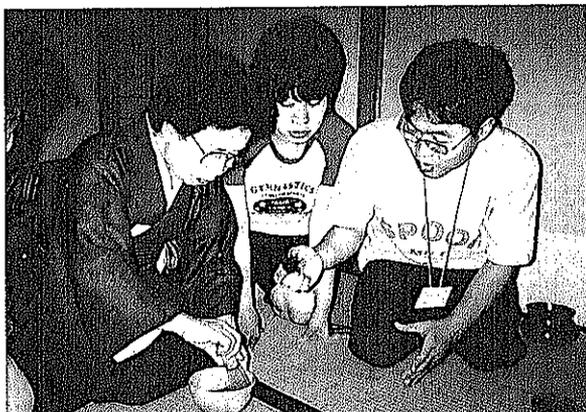


合宿セミナー／합숙 세미나

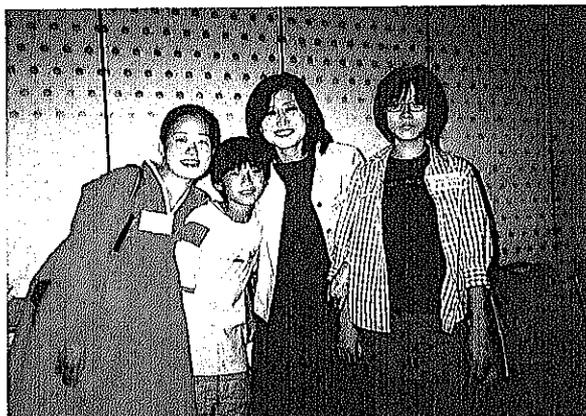


1188639 [7]

## 分野別地方プログラム／분야별 지방 프로그램



## ホームステイ／홈스테이



## 見学旅行／견학여행



## 閉講式・歓送会／폐강식・환송회



# 青年招へい事業

## 청년 초청 사업

|           |    |
|-----------|----|
| 日本語編・일본어편 | 3  |
| 韓国語編・한국어편 | 21 |



# 青年招へい事業



## はじめに

「青年招へい事業」は、国際協力事業団（JICA）が開発途上国を対象に、将来の国造りを担う青年を、専門分野別に約1カ月間招へいし、それぞれの専門分野について学ぶとともに、日本の青年との合宿研修やホームステイなどを通じ幅広い市民レベルでの交流を行い、相互理解を深め、信頼と友情を築くことを目的としています。

招へい国は当初アセアン6カ国のみでしたが、現在は123カ国・地域にまで拡大し、昭和59年度に事業を開始して以来、18年間で日本を訪問した青年は23,256名に達しました。

韓国青年招へい事業は、昭和61年の中曽根総理（当時）の訪韓を受けて昭和62年度から15年間にわたり実施されてきましたが、韓国の経済協力開発機構（OECD）への加盟やその経済社会発展の結果、平成13年度をもって本事業は終了となりました。

招へいされた韓国青年の数は、農村青年、青年指導者、公務員、勤労青年、教員、大学生などの幅広い分野から合計1,472名にのぼります。

本事業に参加した日本人や韓国人青年からは、過去の歴史的経緯にもかかわらず、お互いの国の事情や互いの国民性をよく理解できるようになったとの評価が多く寄せられています。

本事業が、成功裏に終了できましたことも、ひとえに事業にご協力、ご参加いただきました、関係団体、合宿セミナー参加者の方々、ホストファミリーの方々等、プログラムに関わられた多くの方々のご尽力の賜であり、ここに深くお礼申し上げます。

本報告書は、平成13年度の招へい事業に参加した韓国招へい青年、合宿セミナーに参加した日本青年およびホームステイを引き受けていただいた全国の家庭の皆様から寄せられた感想文を中心に、招へい青年の滞在記録をとりまとめたものです。本報告書が青年招へい事業のさらなる発展の指針となり、また皆様の良き思い出の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、心温まるご感想、ご意見をお寄せいただいた皆様ならびに関係者の方々に重ねてお礼申し上げますとともに、今後ともJICA事業へのご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

平成14年3月

国際協力事業団  
国内事業部  
部長 今津 武



# 目 次

はじめに

|                        |    |
|------------------------|----|
| 1. 韓国青年招へい事業           |    |
| 1-1 概要 .....           | 9  |
| 1-2 招へい実績 .....        | 10 |
| 2. 招へい青年の印象.....       | 11 |
| 3. 合宿セミナー参加日本青年の声..... | 13 |
| 4. ホストファミリーの思い出.....   | 15 |
| 5. 実施協力団体の所感.....      | 17 |



# 1. 韓国青年招へい事業

## 1-1 概要

### (1) 目的

21世紀に向けて、日本と韓国との友好と協力の関係をより強固かつ実りあるものとするため、未来の国造りを担う韓国の青年をわが国に招へいし、日本の同世代の青年との交流を通じ、相互理解を深め、真の友情と信頼を培うことを目的とする。

### (2) 実施方法

#### ア 招へい人数

100名

#### イ 招へい対象者

以下の分野の指導的立場にある18～35歳の青年。

(ア) 青年指導者・公務員 25名

地域社会活動・青少年組織のリーダー、若手政党関係者、若手公務員等

(イ) 勤労青年（事務系） 25名

官公庁、団体及び企業の管理部門において勤務する者

(ウ) 教員（実業系高校） 25名

実業系高等学校教員

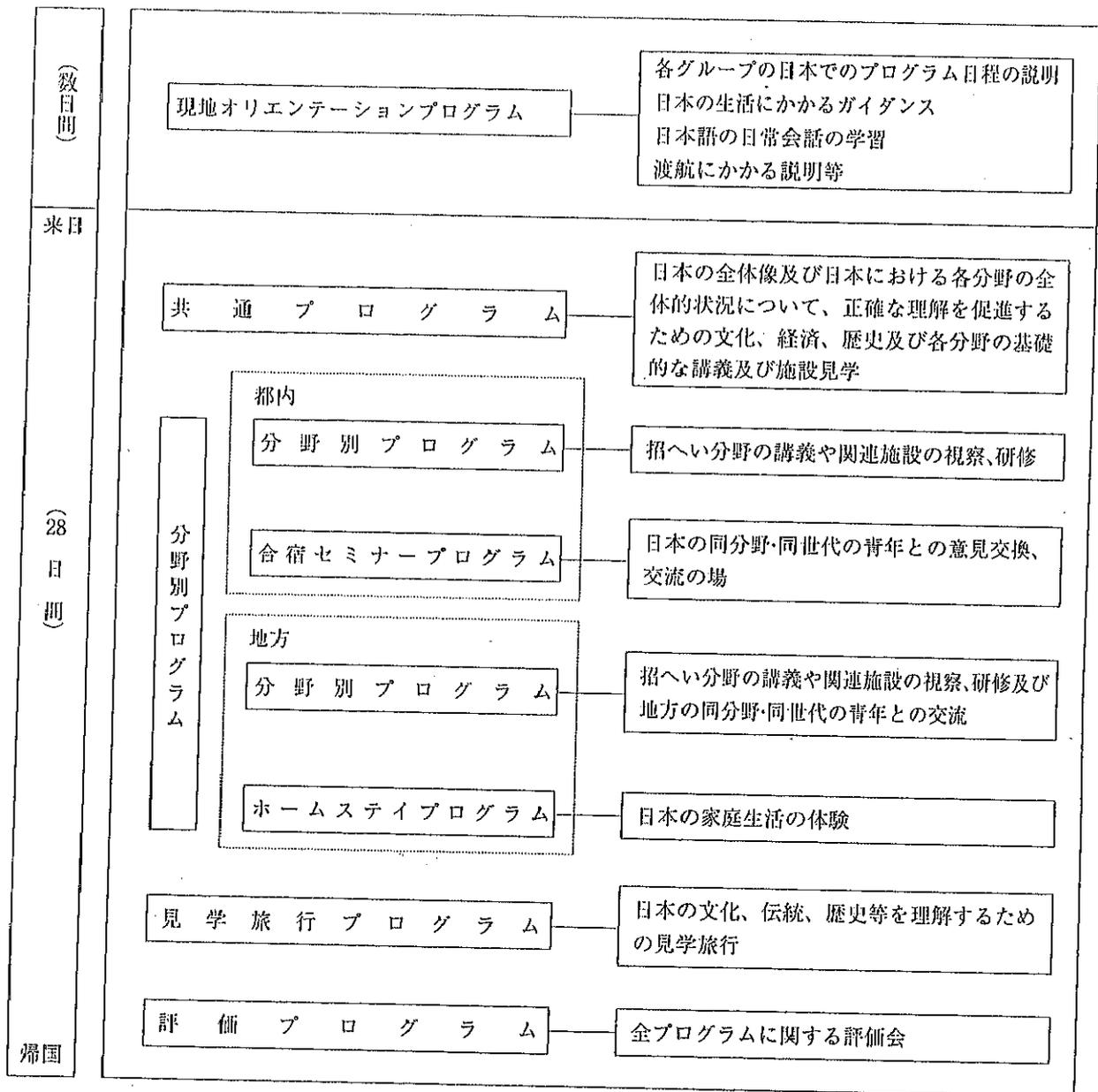
(エ) 学生（芸術系） 25名

芸術系分野を専攻する大学生、専門学校生、大学院生

#### ウ 招へい期間

7月4日から7月31日までの28日間。

### (3) プログラム概要



### 1-2 招へい実績

| 分野名        | 人数 | 実施協力団体         | 実施都道府県 | 地方実施協力団体               |
|------------|----|----------------|--------|------------------------|
| 青年指導者・公務員  | 24 | (社)日本経済青年協議会   | 長 崎    | 長崎県世界青年友の会             |
| 勤労青年 (事務系) | 23 | (財)日本ユースホステル協会 | 群 馬    | アジア地域勤労青年招へい事業館林市実行委員会 |
| 教員 (実業系高校) | 25 | (財)共立国際交流奨学財団  | 福 井    | (財)福井県国際交流協会           |
| 学生 (芸術系)   | 25 | (財)世界青少年交流協会   | 宮 城    | (財)仙台YMCA              |

\*共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

## 2. 招へい青年の印象

### 日本で発見したもう一人のわたしの姿

ソ ジョンア  
(青年指導者・公務員グループ)

青年招へい事業で日本に来て28日目になる今日、韓国から持ってきた新しい歯磨き粉のチューブが平たくなってしまったのを見ると、今回の日本研修がいつの間にか私にとって「生活」になってしまったことを今更のこのように感じた。

韓国での忙しい社会生活を少しだけ後回しにして、日本を感じることができた「1カ月」は単なる1カ月という時間ではなく、それ以上の大切な経験だった。

うわべだけを漠然と知っていた日本の姿が日に日に新しく感じられ、それとともに発見する新しい「わたし」の姿。

平凡で堅実な、ありのままの日本の家庭を体験できた「ホームステイ」、日本人青年と一緒に過ごした「合宿セミナー」は決して忘れることのできないものだった。

日本研修に参加した韓国青年との出会いをはじめ、日本文化と日本青年との出会い、また世界を見据える韓国青年としての「わたし」の姿を発見させてくれた日本研修の経験を大事にしていきたい。

### 大切な時間

ウオン ジョンウ  
(勤労青年グループ)

数日後には帰国の日を迎えてしまうこの時に、長いようで短かった日本での生活を振り返ってみる。自分の人生において、何ものにも代えることのできない貴重な時間。

日本について漠然とした期待を持って、見知らぬ23人の青年と共に始まった生活が、最初はぎこちなかった。しかし1カ月の間に、共に考え、同じ空気を吸い、日本での研修という特別な時間を通して、お金では買うことのできない美しい「情」をもつことができた。

合宿セミナーで、日本人の友達と言葉は通じなくても「目」と「心」で感じることであった時間。1カ月という短い時間のなかで、普通の日本人よりもより多くの経験ができたという興奮と満足感を感じさせてくれた。私たち23人、そして最善を尽くしてくれたコーディネーターや関係者の方々、皆がこの時間を大切に記憶に残し、誇りにできればと思う。

## 忘れられない日本訪問をまとめつつ

チェ ウンジュ  
(教員グループ)

美しい川と森が共存する東京。自然美と人工美が調和してこそ世界的な名所になれるのだ。東京の美しい建物は、日本の「富」を象徴し、丈夫な建造物は自然災害を防ぐための徹底した準備なのだろう。その街並みは経済大国としての信頼性をも感じさせた。一生懸命生きている日本人の生活から、団結の素晴らしさが感じられた。ひとつになるということは非常に重要なことであり、それは成熟した社会を構築する土台となる。

日本の教育というものを知るにつれ、教育の鏡を見ているような思いがした。現在の日本の現状を深く理解し、韓国の教育の未来のために役立てなければならないと思う。

日本で出会ったすべての方々に感謝の気持ちを伝え、今、帰国の途につく。

## ぼくの中の日本

バク ジュンテク  
(学生グループ)

照りつける太陽、そして湿った空気。それが、成田空港に降り立ったぼくの日本に対する最初の印象であり、その時からぼくの1カ月に及ぶ日本での日々が始まった。

行き交う人々の顔は韓国人と全く同じで、ここは外国なんかじゃなくて韓国のとある町ではないかと錯覚するほどだった。それでも、時がたつほどにぼくの国とは違った日本の文化に気づき始めた。

多くの日本人は心配りの人だった。彼らのマインドは、ぼくの専攻分野である室内デザイン建築にも如実に表れていた。ぼくはその繊細さに感動し、日本人の成熟した市民意識は自分自身を見つめ直す機会を与えてくれた。

今、ぼくは日本という国のデッサンを終えたところだ。あとの彩色は日本人の手に委ねたいと思う。願わくは、この絵が日韓すべての人にとって美しく、そして尊い作品になることを。

### 3. 合宿セミナー参加日本青年の声

ハングゲソ ト マンナプシダ (韓国でまたお会いしましょう)

中野 宙則

(地方公務員：青年指導者・公務員グループ)

わずか3日間で韓国に何十年來の友人がたくさんできたような素晴らしい合宿セミナーだった。レクリエーションから始まり、パーティー、グループ討論など。そのなかで強く感じたのは、韓国の人たちは目上の人に対しての接し方がしっかりしているということだ。目上の人に対して敬語を使い静かに話を聞くという、日本では消えつつある当たり前の姿に深く心を打たれた。

また私と同じ公務員のグループだったため、さまざまな仕事上の悩みなども話したが、どこの国でも同じような苦勞があることを知り、より距離が近くなったような気がした。

私のつたない韓国語で、意識していないところで失礼があったのではないかと不安が残るが、韓国の皆さんにご理解いただいて無事に合宿セミナーを終えることができた。

韓国のみんな、今度会いに行くよ。

心にぐんと近づいた韓国

猪熊 未奈子

(団体職員：勤勞青年グループ)

日本では昨今、「ワールドカップ日韓共催歓迎」ムードが漂っていたかと思えば、「教科書問題で日韓関係悪化」とのことで、各地で日韓交流事業が中止になった。その矢先の今回の合宿セミナー。両国の青年とも多少なりとも複雑な心境にあったに違いないが、こんな時期だからこそ参加できて本当によかった。

これまで、私にとって韓国は、「地理的には近いが精神的にはまだ遠い国」であった。それが今回、ぐんと心に近づいたことがうれしく、感動した。一番の要因は、韓国青年と互いにありのままの自分で対面し語り合えたことにある。また、合宿セミナーが日本青年による手作りの運営であったことが、韓国青年の主体的参加に大きくつながった。交流事業とは豪華に飾り立てることより、心温まる内容・手法がとりわけ大事なのだと痛感した。身をもって得た交流事業の教訓を、今後の私の地域国際化の活動にぜひ活かしたい。

## カムサハムニダ（ありがとうございます）

草刈 精一  
(高校教員：教員グループ)

私はこの合宿セミナーで、日本と韓国との違いについて知りたいと思い、参加した。

ところが、韓国の先生方と接していくうちに、両国のあいだには、違いよりも共通点のほうが多いことに気がついた。特に教育制度はよく似ていて、高校教育の抱えるさまざまな課題も同じであり、その対応策は共有できるものと思われた。

韓国の先生方は、明るく積極的であった。特に、教育問題への自覚意識、自力で解決策を模索する姿勢は参考になった。このことは、勤務校の報告会で全職員に伝えた。

この合宿セミナーでのさまざまな経験を、日々の教育実践で生徒に還元したいと思う。そして、いつの日か日韓両国教師の教え子たちが、国と言葉の違いを超えて交流する日が来ることを楽しみにしている。

「カムサハムニダ」

## 日韓の壁が壊れた！

渡辺 秀幸  
(大学生：学生グループ)

合宿セミナーでの交流が終わってまず思ったのが、韓国の歴史や文化についてもっと学ばなければならない、ということだった。ソクラテスの有名な教訓に「無知の知」という言葉があるように、今回の合宿セミナーで自分の認識のなさに気づいたことや、韓国に対する先入観や偏見が全く消えたことが大きな収穫ではないかと思う。

韓国側の一番仲のいい友達、チェ ソンス君だ。話をしているうちに、彼が持っている日本に対する偏見のようなものを感じ取り、なんとしてでも日韓の壁を壊さなければならないと思い、誠実に情熱を持って話をした。すると、別れの時に「日韓の壁がなくなったよ。あなたたちと話していて日本の将来が楽しみだ！」と言ってくれた。

## 4. ホストファミリーの思い出

### 韓国から交流の風に吹かれて

宮崎 文子

(長崎県：青年指導者・公務員グループ)

私の家族はウィズンファンさんを迎えて韓国料理（チヂミ）をみんなで作るなど、和やかな交流ができた。言葉の壁を乗り越えながらお互いに理解し合おうと、心や目で語り合い、相手に通じた時は感動だった。一人の日本人として私は、素直な気持ちで「ごめんなさい。日韓の問題で……」と言った。ウィさんは少し困った顔で「もうだいじょうぶです、お母さんはこんなに優しくしてくれています。これからもずっと仲良くしてください」と手をしっかり握りしめられた時、たくさんの思いやりを手の温もりから感じ取ることができた。

たった3日間だったが私たちにとってはかけがえのない日韓友好の交流で大切な思い出になった。お別れ会の時、韓国青年が笑顔で「国際交流はまず笑顔から始めましょう」と自分の詩を語った。ほかの青年も「別れることはまた会えることにつながる。その日まで頑張りましょう！」と言ってくれた。さまざまな日韓友好活動の行事等が中止される中、日韓友好の熱い関係を築き上げていくことを確信し、また今回の青年との友好がいつまでも続くよう育んでいきたい。

### 近くて遠い国

高井 宏美

(群馬県：勤労青年グループ)

青年招へい事業のホストファミリーとして参加して4回目になる。今回、韓国からの来訪者ということで「近くて遠い国」のイメージがあったが、わが家に来たミーヨンさんは子供好きで人懐こい女性だったので、本当の家族のように接することができた。

手料理のそばとてんぷらはとても好評だったし、名所めぐりや花火など思い出は尽きないが、特に心に残ったのは「アリラン」の歌だった。帰る日に一緒に歌った異国の歌は、どこか懐かしさを覚えるものだった。彼女が作ってくれた韓国風焼きそばとお好み焼きの味は一生忘れられない。民間レベルではあるが、二国間の文化の橋渡しができて、私たち家族にとっても有意義で貴重な経験となった。

ミーヨンさん、カムサハムニダ、トッマンナプシダ！（ありがとう、また会いましょう！）

## 東方礼儀之国の友

金谷 祐一  
(福井県：教員グループ)

教科書問題等で日韓関係がギクシャクするなかでの今回のホームステイは、そのことを忘れさせるくらい和やかな雰囲気でも過ごすことができた。

私が韓国語を多少なりとも聞き話すことができたことと、同年齢という気安さもあって、お互い本音で話げできたのは、韓国の若者の考え方を知るうえで非常によかったと思う。やはり相手の国の言葉を理解することなしには真の交流はできないものだ、あらためて痛感した。

また私の両親に対して出会いと別れの時に見せてくれた韓国式のお辞儀も印象的だった。年長者を敬うという韓国人の倫理観を大切に持っている彼の誠実な人柄を垣間見ることができ、彼との友人関係をこれからも続けていこうという気持ちになった。とても充実した3日間だった。

## 美しい韓国女子大生の歌声

佐伯 晴郎  
(宮城県：学生グループ)

4人の素晴らしい韓国の女子大生をわが家に迎えた。

英語と片言の日本語による日常会話のほか、知人の韓国の男子留学生に通訳を頼み、目下問題になっている「新しい歴史教科書」について、彼らの意見を聞くことができ、非常に有益であった。

単なる友好親睦だけでなく、お互いの考え方や文化的・歴史的背景の相違を知り合うことが大切であると感じた。

4人は皆クリスチャンで、日曜日の礼拝には喜んで参加し、韓国語の賛美歌を合唱してくれた。その歌声がさわやかで美しかったことに、会衆一同が感動した。韓国の学生たちも感動して涙を流した。わずか3日間の触れ合いが永久に続く思いがした。感謝。

## 5. 実施協力団体の所感

### 雨降って地固まる

梅田 栄治

((社)日本経済青年協議会：青年指導者・公務員グループ)

韓国青年は折しも教科書問題で両国が揺れている中での来日となった。来日前の青年の日本に対する印象は一様によくないと言われている。この誤解をどう解くかが課題だった。そこで都内プログラムでは、「日本の中の韓国」にスポットを当ててみた。

その中の一つ、東京韓国小中学校を訪問した。キム校長の計らいで、合宿セミナー参加の日本人青年も一緒に授業を参観した。株式会社ロッテでは、自国出身の経営者が異国の地で、日本を代表する食品大手の不動の地位を築き上げたことに感嘆していた。

また、在日の方の参加なくしては真の友好はあり得ないので、韓国民団青年会を訪問して、彼らの生い立ちや日本と韓国の狭間に生きている現状を説明していただいた。

ユン総団長が記者団を前に語った「雨降って地固まる」のごとく、両国が真の姿を見ることによって誤解が払拭されたと思う。

韓国青年招へいは、今回をもって15年の歴史に幕を閉じたが、日韓の友好はより一層高まったことを確信している。

### 韓国青年を受け入れて

福喜 哲史

(長崎県世界青年友の会：青年指導者・公務員グループ)

今回、教科書をめぐり、民間の相互交流事業が中止になる中、青年指導者・公務員グループのメンバーを迎えた。

地方プログラムを成功させるカギはホームステイにあるといわれるが、教科書問題でホストは集まるだろうかとの心配も、取り越し苦労に終わった。

隣人ではなく、息子、娘としての自然な受け入れがいつの間にか壁をなくし、わが子に話しかけるように、また、自らの家族に語りかけるように、より深い絆が築かれたと感じた。別れ際に数多くの青年が「オモニ」「ありがとうございました」と言っていたのが、それを物語っている。何度もお礼を言う姿を見た時、人と人が出会う喜びを身をもって感じた。そして、今までにない感動がこみ上げてきた。

人と出会う感動と喜びをこの事業の中で知り得たことより、日韓交流が永遠に継続できる礎であることも確認できた。

そして私たちの地域にこのことはいつも生きている。

「あいとは（あの人とは）ちんぐばい（友達です）」という方言が、軽やかに心地よく私の耳に残る。

## 年長者を大切にす愛すべき青年たち

椎木 瑞枝

((財)日本ユースホステル協会：勤労青年グループ)

韓国のODA対象国卒業は経済発展がいまや日本をしのぐことから見れば当然と思う一方で、今日まで歴史や文化で深いかかわりを持ちながら、いまだに誤解の残る隣人との青年交流の重要性は一層強く感じる。

初めは公務員、青年指導者が多かったせいか、わがままで私の強い民族、との印象であったが、養護学校教員、勤労者等、幅広い分野の青年と接する間に、「タフで明るい愛すべき青年」との印象になってきた。

合宿セミナーで興が乗り、夜中に相撲をとり、そこがちょうど管理人の寝室の真上だったことからお目玉を食った青年たち。思いがけない誕生会にもらい泣きし、斜に構えていた勤労青年のそのあとの笑顔。韓国に青年たちに会いに行き、「また今度行きます」とうれしそうに話すコーディネーターをした当協会の職員。なぜか笑顔ばかりが浮かび、今日まで積み重ねた大切なものの途切れる寂しさを感じる。

## 青年招へい事業

中島 勝敬

(アジア地域勤労青年招へい事業館林市実行委員会：勤労青年グループ)

韓国からの青年たちは、報道などで十分日本のことを知った上で来日するのだろうが、報道とは限られた紙面、時間等の制約の中で行われているので、日本の地方のありのままの姿を肌で感じてもらい、館林市民がいかに韓国との交流を求めているか知ってほしいと思った。

館林に在住する韓国青年の意見により、埼玉のワールドカップスタジアムの見学をプログラムに組んだが、交通事情により到着までに予想以上の時間がかかってしまった。

今回、初めての韓国青年の招へい、予期しない事故渋滞など、韓国青年にはいろいろ迷惑をかけてしまったが、地方の実情はある程度理解していただけたのではないと思う。館林市民も韓国青年と交流ができ、とても有意義だった。

平成14年度はぜひ、館林市の青年、ホストファミリーを韓国に派遣し、より一層の交流を図りたいと思っている。

## 交流の所感

崔 浩然

((財)共立国際交流奨学財団：教員グループ)

今回の受け入れでは、数多くの見学、数多くの人との出会い、書ききれないほど多くのものを経験し、勉強できたように思う。その中で一番心に残ったのは、合宿セミナーから帰ってきた後のことだった。

合宿セミナーを終えた帰りのバスで今後のプログラムの日程を聞いていた日本人参加者の2人の教師が、浅草見学の時にわざわざ駆けつけて案内してくれた。歓送パーティーにも別の参加者とともに参加した。韓国の青年たちの、まるで親友と再会したようなうれしそうな笑顔が非常に印象的だった。

また、別の参加者の教師も多忙の中、合宿セミナーで撮ったたくさんの思い出の写真正が入っているCD-ROMを作り、25人の韓国青年全員にプレゼントした。韓国の青年は日本での素晴らしい体験と思い出を持ち帰ることができたことだろう。

こうした日本人参加者の方々の親切など、居心地のよい対応が韓国の青年たちの日本への誤解を解き、心から日本を理解するきっかけになった。今後これを契機に、日韓関係がより発展し、お互いを本当に理解できることになるだろう。

## 近くて遠い国「韓国」

中田 雅之

((財)福井県国際交流協会：教員グループ)

教科書問題で日韓関係がギクシャクするなか、韓国青年一行は、明るく元気に福井を訪れた。福井では、県内実業系高校教育の現状等を理解してもらうため、県教育庁高校教育課職員による講義や商業と工業系の高校の見学と教員との質疑応答等を行った。そのほか、福井の文化紹介として、越前和紙の手すき体験等も行った。

青年たちの一番の関心事は、ホームステイだったようだ。ホストファミリーと対面する時間が近づくにつれ、青年たちは緊張と不安でいっぱいだった。しかし、ホームステイを終えて戻ってきた時には、どの顔も笑顔で、ホストファミリーと仲良く過ごせたというのが一目で分かった。なかには、今後もEメールなどで交流を続けていきたいと言う人もいた。

夏休み中で、青年たちは生徒が一生懸命、部活動に取り組んでいる様子を見て感心しており、一面だけではあるが、日韓の生徒の違いなどについても知ってもらえたのではないかなと思う。

## 日韓の懸け橋に

大元 祐子

((財)世界青少年交流協会：学生グループ)

韓国から芸術系の学生を受け入れることが決まって、見学・研修先に頭を悩ませた。学生たちの専攻があまりに多岐にわたっていたからだ。そして考えた末に、日本の芸術・文化を幅広く紹介するプログラムとなった。邦楽鑑賞、生け花体験、歌舞伎鑑賞、着物の美術館見学など、日本に滞在しなくては経験できないものを多く取り込んだ。青年たちの反応はさまざまであり、すべてにより評価が得られたわけではない。なかには反日感情の強い者もいた。しかし帰国後、もう一度研修で体験したことを振り返ってほしい。彼らは合宿セミナーやホームステイを経て、日本人と友情を築き、以前より日本を理解したはずだ。数年後、今回の来日青年のなかから日韓の芸術分野の懸け橋となる者が出てくれることを願っている。

## 素晴らしい学生たちに「ありがとう」

高松 成士

((財)仙台YMCA：学生グループ)

仙台YMCAで実施される国際交流・理解プログラム同様、ホスピタリティーの精神（旅人をねんごろにもてなす）で実施した。古い日本の習慣や文化が残る東北の地での交流、仙台の言葉、YMCAに集うボランティア学生との交流の場が作れ、感謝している。それにもまして、韓国学生は素晴らしい青年であった。

体験を含んだ研修（こけしの絵付け）は、青年たちには好評だった。工人の先生による説明を通訳できない一幕もあつたり、「でいすぬなっていけねがなや？ いっぺいん、かんこぐさけつていきいていもいいがらや（弟子になってくれないかな？ 一度、韓国に帰ってからでいいから）」などと言

われるほど、筆使いの巧みな青年もいた。逆に、官庁や大学訪問は不評であった。夏休み中の大学は難しく、そのなか、知事の人柄に和むことのできた青年たちであった。

# 청년 초청 사업



## 머 리 말

‘청년초청사업’은 국제협력사업단(JICA)이 개발도상국을 대상으로 실시하는 기술협력의 일환으로 장래의 국가건설을 담당하게 될 청년들을 전문분야별로 약 한달동안 일본에 초청하여 각분야에 관한 전면적인 이해는 물론 홈스테이 가족들과의 폭넓은 교류를 통하여 상호이해를 돈독히 하고 신뢰와 우정을 배양하는 것을 목적으로 하는 사업입니다.

초청국은 처음에는 아세안 6개국에 국한되어 있었으나 현재는 123개국·지역으로 확대되었으며 1984년도에 사업을 시작한 이래 18년동안 일본을 방문한 각국 청년은 23,256명에 이르고 있습니다.

한국청년초청사업은 1986년 나카소네 총리의 방한을 계기로 1987년도부터 15년에 걸쳐 실시되어 왔습니다만, 한국이 경제협력개발기구(OECD)에 가입한 것 뿐 아니라 한국의 경제 사회발전의 결과, 2001년을 마지막으로 본사업이 종료되었습니다.

초청청년의 숫자는, 농촌청년 청년지도자 공무원 근로청년 교원 대학생 등 폭넓은 분야에서 모두 1,472 명에 달합니다.

본 사업에 참가한 일본인이나 한국인 청년들로부터는, 과거 역사적 경위에도 불구하고 서로 상대방 나라에 대한 상황이나 국민성을 잘 이해할 수 있게 되었다는 평가를 많이 받았습니다.

본 사업이 성공리에 끝날 수 있었던 것도, 오로지 사업에 협력해 주시고 참가해 주신 관계단체, 합숙 세미나 참가자와 홈스테이 패밀리 여러분들 그리고 프로그램에 관계해주신 많은 분들의 노력의 덕택이며 이 자리를 빌어 진심으로 감사하다는 말씀을 전합니다.

본 보고서는 2001년도 초청사업에 참가해주신 한국초청청년, 합숙세미나에 참가한 일본청년 및 홈스테이를 받아주신 전국의 홈스테이 패밀리 여러분들이 보내주신 감상문을 중심으로 초청청년들의 체제기록을 엮은 것입니다. 이 보고서가 본 사업의 저기 큰 발전을 위한 지침서가 되고 또한 여러분들의 좋은 추억이 되었으면 하는 바램입니다.

마지막으로 마음이 훈훈해지는 감상문과 의견을 보내주신 분들, 관계자 여러분들께 거듭 깊은 감사를 드리며 청년초청사업이 더욱더 뜻깊은 프로그램이 될 수 있도록 앞으로도 많은 협력을 부탁드립니다.

2002년 3월  
국제협력사업단  
국내사업부  
부장 이마츠 다케시



# 차 례

## 머리말

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 1. 대한민국 청년 초청사업.....     | 27 |
| 1-1 개요.....              | 27 |
| 1-2 사업 실적.....           | 28 |
| 2. 초청 청년 감상문.....        | 29 |
| 3. 합숙세미나 참가 일본청년의 말..... | 31 |
| 4. 홈스테이 가정이 느낀 인상.....   | 33 |
| 5. 실시협력 단체 의소감.....      | 35 |



# 1. 대한민국 청년 초청사업

## 1-1 개요

### (1) 목적

21세기를 향하여, 한국과 일본의 우호와 협력관계를 보다 확고하고도 알찬 관계로 만들기 위해, 미래의 국가 건설을 담당하게 될 한국청년을 일본에 초청하여, 일본의 동세대 청년들과의 교류를 통해 상호이해를 돈독히 하고 참된 우정과 신뢰를 배양하는 것을 목적으로 한다.

### (2) 실시 방법

#### (가) 초청 인원수

100명

#### (나) 초청 대상자

아래 분야에서 지도적 입장에 있는 18~35세의 청년.

##### (가) 청년지도자·공무원 25명

지역사회활동·청소년조직의 리더, 정당관계자, 공무원 등

##### (나) 근로청년 (사무계) 25명

관공청, 단체 및 기업의 관리부문에서 근무하는 자

##### (다) 교원 (실업계고등학교) 25명

실업계 고등학교 교원

##### (라) 학생 (예술계) 25명

예술계 분야를 전공하는 대학생, 전문학교생, 대학원생

#### (다) 초청기간 및 시기

7월4일부터7월31일까지28일간

(3) 프로그램 개요

|              |                |   |
|--------------|----------------|---|
| (수일간)        | 현지 오리엔테이션 프로그램 | 분야별 초청 프로그램에 관한 설명<br>일본생활 안내<br>일본어 일상회화 학습<br>출국수속에 관한 설명                       |
| 방일           | 공 통 프 로 그 램    | 일본의 실상 및 일본에서의 각 분야의 전체적 상황에 관해서 정확한 이해를 촉진하기 위한 문화, 경제, 역사와 각 분야의 기초적인 강의 및 시설견학 |
| 28<br>일<br>간 | 분야별 프로그램<br>도내 | 초청분야의 강의와 관련시설의 시찰 및 연수   |
|              | 합숙세미나 프로그램     | 일본의 같은 분야, 같은 세대의 청년들과의 의견 교환, 교류 마당  |
|              | 분야별 프로그램<br>지방 | 초청분야에 관한 강의와 관련시설의 시찰·연수 및 같은 분야, 같은 세대의 지방 청년들과의 교류                              |
|              | 홈스테이 프로그램      | 일본 가정생활 체험  |
| 귀국           | 견학여행 프로그램      | 일본 문화, 전통, 역사 등을 이해하기 위한 견학여행   |
|              | 평가 프로그램        | 프로그램 전체에 대한 평가회   |

1-2 사업 실적

| 분야면         | 인수 | 실시협력단체          | 실시지역 | 지역협력단체                    |
|-------------|----|-----------------|------|---------------------------|
| 청년지도자·공무원   | 24 | (사)일본경제청년협의회    | 나가사키 | 나가사키현 세계청년친구회             |
| 근로청년(사무계)   | 23 | (제)일본 유스호스텔 협회  | 군마   | 아시아지역 근로청년초청사업타테바야시 실행위원회 |
| 교원(실업계고등학교) | 25 | (제)공립국제교류잡학재단   | 후쿠이  | (제)후쿠이현 국제교류 협회           |
| 학생(예술계)     | 25 | (재)세계 청소년 교류 협회 | 미야기  | (재)센다이 YMCA               |

\*공통/평가 프로그램은 일본국제협력 센터가 전그룹을 대상으로 실시.

## 2. 초청 청년 감상문

### 일본에서 발견한 또 다른 '나'의 모습

서 정아

(청년지도자·공무원 그룹)

21C 우정의 계획에 참가한 지 28 일째 되는 오늘, 한국에서 준비해온 새 치약이 납작하게 줄어버린 걸 보며, 이번 일본연수가 어느 새 나에게 '생활'이 되었음을 새삼스레 깨닫는다.

한국에서의 바쁜 직장생활을 잠시 뒤로하고 일본을 느낄 수 있었던 '한 달'은 한 달이라는 시간 그 이상의 소중한 경험이었다. 피상적으로 막연하게 알아왔던 일본 모습이 하루하루 새롭게 다가올 때마다 더불어 발견된 새로운 '나'의 모습.

평범하고 검소한 일본가정을 그대로 경험할 수 있었던 '홈스테이'와 일본청년과 함께한 '합숙세미나'는 결코 잊을 수 없을 것이다. 일본연수에 참가한 한국청년들과의 만남을 시작으로 일본문화와 일본청년과의 만남, 또 세계를 바라보는 한국청년으로서의 '나'의 모습을 발견할 수 있게한 일본연수의 경험을 소중히 간직하리라.

### 소중한 시간

원 정우

(근로청년 그룹)

머칠만 지나면, 귀국을 하게되는 이 시점. 길고도 짧았던 일본에서의 생활을 생각해본다. 내 인생에서 무엇보다도 바꿀수 없는 귀한 시간들... 처음 일본에 대한 막연한 기대를 가지고 낯선 23명과 함께 시작한 생활이 어색하기도 했지만 한 달동안 같이 생각하고 숨쉬며 일본연수라는 특별한 시간을 통해 돈으로도 살수없는 아름다운 정을 갖게 되었다. 합숙세미나 때 일본인 친구들과 말이 잘 안 통해도 눈으로 맘으로 느낄 수 있었던 시간. 홈스테이를 통해 일본가정 체험, 또한 일본전통 문화를 체험 할 수 있는 알찬 시간들이 짧은 한 달동안 일본 현지인들보다 더 많은 경험을 할 수 있었다는 흥분과 만족감을 느끼게 한다. 깊은 정이든 우리 23명 팀원과 최선을 다해주신 코디네이터 분들과 관계자 분들 모두가 이 시간을 소중히 기억하고 자랑스럽게 여기길 바란다.

## 잊지 못할 일본방문을 정리하며

최 은주

(교원 그룹)

아름다운 강과 숲이 공존한 도쿄. 자연과 어우러있는 곳이야말로 세계적인 명소가 되는 것이다. 도쿄의 아름다운 건축예술은 일본의 부를 보여주었고, 튼튼하고 견고한 건축구조는 지리적 위험을 막기 위한 철저한 그들의 준비성을, 또한 경제대국으로서 있을 수 있었던 신뢰성을 동시에 느끼게 했다. 그 속에 열심히 살아가는 일본인들 - 그들의 삶은 모두가 하나가 되어 어우러져 있는 듯하다. 하나가 될 수 있다는 것은 매우 중요한 일이며 진정으로 성숙된 하나가 되는 것은 참으로 아름다운 일일 것이다. 일본의 교육은 마치 거울을 보고 있는 듯한 느낌마저 들었으며 현재 그들의 문제를 깊이 새겨들어 밝은 우리교육 미래를 위한 조언과 길을 만들어야 한다. 관계자 분들에게 감사를 전하며 귀국하려한다.

## 내 안의 일본

박 준택

(학생 그룹)

내려찍는 햇살, 습한 느낌이 나리타공항에서 가진 일본에 대한 첫 느낌이었으며, 한 달의 여정이 시작되었습니다. 처음에는 너무나도 닮은 모습에 외국이라기보다 우리나라의 한 도시라는 생각마저 들기도 했지만 시간이 지날수록 우리와는 다른 그들의 문화를 보게 되었습니다. 이중 남을 배려하는 자세는 대부분의 일본인에게 느낄 수 있었으며, 이런 정신은 제 자신의 전공분야인 실내디자인 건축에서도 얻을 수 있어 일본의 섬세함에 감동을 받았습니다. 또한 성숙한 시민의식은 우리 자신을 돌아보게 하는 계기가 되었습니다. 이제 한 달여 동안 일본이라는 나라의 스케치를 마무리하면서 그 채색과정은 일본인 손에 맡겨 이 그림이 한국인, 일본인 모두에게 아름답고 소중한 그림이 되었으면 합니다.

### 3. 합숙세미나 참가 일본청년의 말

#### 한국에서 또 만남 시다

나가노 히로노리

(지방 공무원 : 청년지도자 · 공무원 그룹)

불과 3일만에 한국의 오랜 친구들이 많이 생긴 것 같은 멋진 세미나였다. 레그리에이션부터 시작하고 파티, 그룹토론 등. 그중에서 가장 강하게 느낀 것은 한국분들의 웃사람에 대한 태도였다. 웃사람에 대해서 경어를 사용하여 조용히 이야기를 듣는다는 일본에서는 없어지는 당연한 모습에 깊은 감명을 받았다. 또한 우리와 같은 공무원의 구룹였기 때문에 여러가지 업무상의 고민도 이야기했으니 어느 나라에서도 비슷한 고생이 있는 것을 알고 한층 더 사이가 가까워진 기분였다.

나의 서투른 한국말로 의식하지 않는 부분에서 실례가 없었는지 불안하지만 한국분들의 넓은 이해심으로 무사히 세미나를 끝마칠 수 있었다. 한국 친구들을 다음에는 내가 만나려 갈거야.

#### 내 마음에 아주 가까워진 한국

이노구마 미나코

(단체 직원 : 근로 청년 그룹)

일본에서는 요즘 [월드컵 한일공동개최 환영]의 분위기가 있는가 하면 [교과서문제에서 한일관계 악화] 때문에 각 지역에서 한일교류사업이 중지되었다. 이러한 상황에서 가진 이번 합숙세미나, 양국의 청년들은 다소나마 복잡한 심정인 것은 틀림이 없으나 그런 시기일수록 오히려 참가할 수 있었어 정말 좋았었다.

지금까지 나에게 한국은 [지리적으로는 가깝고도 정신적으로는 아직 먼 나라]였다. 그런데 이번에는 아주 마음이 가까워져서 기뻐고 감동을 느꼈다. 그 첫번째 요인은 한국청년들과 서로 있는 그대로의 모습으로 만나고 대화를 할 수 있었던 것이다. 또한 이 세미나가 일본청년들이 손수 직접 운영했기 때문에 한국청년들의 자율적인 참가와 연결되었다. 교류사업이란 화려하게 장식하는 것 보다 마음이 호뭇해지는 내용과 방법이 특히 중요하다고 통감했다.

나는 직접 얻은 교류사업의 교훈을 앞으로 지역국제화를 위해 살리고 싶다.

## 감사합니다

구사가리 세이이치

(고등학교 교원 : 교원 그룹)

나는 이 세미나에서 일본과 한국과의 차이를 알고 싶어서 참가했다. 그런데 한국의 선생님들과 접하면서 양국간에는 차이점 보다 공동점이 많은 것을 알게 되었다. 특히 교육제도는 매우 비슷하며, 고등학교 교육이 안고 있는 여러가지 과제도 같고, 그 대책은 공유할 수 있을 것 같이 느꼈다.

한국의 선생님들은 밝고 적극적이었다. 특히 교육문제를 위한 자립의식, 자체적으로 해결책을 모색하는 자세는 참고가 되었다.

이 세미나에서 얻은 여러 경험을 매일 교육실천을 통해 학생들에게 환원할 생각이다. 그리고 언젠가 한일양국 교사의 제자들이 나라와 언어의 차이를 초월해서 교류할 날이 올 것을 기대한다. 감사합니다.

## 한일간의 벽이 무너졌어!

와다나베 히데유키

(대학생 : 학생 그룹)

교류가 끝나고 우선 느낀 것은 한국의 역사나 문화에 대해서 좀더 공부해야 한다는 것이었다. 소크라테스의 유명한 교훈에 [무지의 지]라는 말이 있듯이 이번 합숙에서 자신의 무인식을 알게 되어, 한국에 대한 선입관이나 편견이 모두 없어진 것이 큰 수확이었다고 생각한다. 한국측의 가장 친한 친구는 최 선수군이다. 대화를 나눈 사이에 그가 가진 일본에 대한 편견같은 것을 느껴, 어떻게 해서도 한일간의 벽을 무너뜨리지 않으면 안된다고 생각하고, 성실하게 정열을 가지고 이야기했다. 그러자 헤어질 때 [한일간의 벽이 없어졌다. 당신들과 이야기를 해보니 일본의 장래가 기대된다.]고 말해 주었다.

## 4. 홈스테이 가정이 느낀 인상

### 교류란 바람에 날려서

미야자키 후미코

(나가사키 현 : 청년지도자 · 공무원 그룹)

나의 가족은 [위 증혼씨]를 맞이하여 한국요리인 지짐을 함께 만드는 등 화목한 교류를 할 수 있었다. 언어의 장벽을 넘어서 서로 이해하려고 마음과 눈으로 대화를 나누며, 상대방과 통했을 때는 감동적이었다. 나는 한사람의 일본인으로서 솔직한 마음으로 [미안해요 한일간의 문제 때문에]라고 말했다. 위씨는 약간 곤란한 표정으로 [괜찮아요. 어머니가 이렇게 친절하게 해 주시는데. 앞으로도 계속해서 사이 좋게 대해 주세요.] 하고 꼭 손을 잡았을 때, 따뜻한 손에서 많은 배려를 느낄 수 있었다.

불과 3일간 엮었지만 우리들에게는 몹시 소중한 한일우호의 교류와 추억이 생겼다. 송별회에서 어느청년이 웃는 얼굴로 [국제교류는 우선 웃는 얼굴에서 시작합니다.] 라고 자기 생각을 말했다. 다른 청년도 [헤어짐은 또 만남으로 연결된다. 그 날까지 힘을 내자.] 고 말했다. 여러 한일우호활동의 행사가 중지되는 가운데 한일우호의 뜨거운 관계가 구축된 것을 확신하고, 또한 이번 한국청년과의 우호가 오래 계속되도록 노력하고싶다.

### 가깝고도 먼 나라

다카이 히로미

(군마 현 : 근로청년 그룹)

청년초청사업에 호스트 패밀리로 참가하는 것은 4번째다. 이번 한국에서의 손님에는 [가깝고도 먼 나라]의 이미지가 있었으나, 우리집을 찾아 주신 [미영씨]는 아이를 좋아하는 불임성이 있는 여성이어서 친가족 처럼 접할 수 있었다. 손수 만든 [소바]와 [텐프라]도 호평을 받았고, 명소 답사나 불꽃놀이 등 추억을 한없이 많지만, 특히 마음에 남은 것은 [아리랑]의 노래였다. 헤어질 때 같이 불렀던 이국의 노래엔 웬지 그리움을 느꼈다. 그녀가 만들어 준 한국식 볶은 라면과 지짐의 맛은 평생 잊을 수가 없다. 민간차원이지만 양국간의 문화 가교 역할을 할 수 있어서, 우리가족에게는 아주아주 유익하고 귀중한 경험이 되었다. [미영씨 감사합니다. 또 만남시다.]

## 동방 예의지국의 친구

가나다니 유우이치  
(후쿠이 현 : 교원 그룹)

교과서문제 등으로 한일관계가 어색한 가운데 이번 홈스테이는 그 일을 잊을 정도 화목한 분위기 속에서 지낼 수 있었다. 내가 다소나마 한국말을 할 수 있었던 것과 동갑이란 편안함에, 서로 본심으로 이야기할 수 있었던 것은 한국젊은이의 생각을 알기 위해서 아주 좋았다. 역시 상대방 나라의 언어이해 없이는 진정한 교류는 어렵다는 것을 다시 한번 통감했다. 그리고, 내 부모를 위해 만날 때와 헤어질 때 보여준 한국식 절도 인상적이었다. 웃사람을 공경하는 한국인의 윤리감을 소중히 여기는 그의 성실한 인격을 엿볼 수 있어서, 그 친구와의 관계를 앞으로도 계속 유지하고 싶은 생각이 들었다. 아주 알찬 3일간이었다.

## 아름다운 한국 여대생의 노랫소리

사에키 하루오  
(미야기 학 : 학생 그룹)

4명의 훌륭한 한국 여대생들을 우리집은 맞이했다. 영어와 떠들떠들한 일본어로 이루어지는 일상 회화. 그 이외는 한국에서 온 남자유학생에 통역을 부탁하고, 지금 문제가 되는 [새로운 교과서]에 대해 그들의 의견을 들을 수가 있어서 아주 유익했다.

단순한 우호친목 뿐만 아니라 서로의 생각이나 문화적, 역사적 배경의 차이를 이해하는 것이 중요하다고 느꼈다.

4명 모두 기독교 신자였고, 일요일의 예배에는 달갑게 참석해서, 한국어의 찬송가를 합창해 주었다. 그 노랫소리는 산뜻하고 아름다웠다. 교인일동이 감동했다. 한국의 학생들도 감동으로 눈물을 흘렸다. 불과 3일간의 접촉이 영원히 이어질 것 같이 느꼈다. 감사.

## 5. 실시협력단체의소감

### 비온 뒤에 땅이 굳는다

우메다 에이지

((사)일본 경제 청년 협의회 : 청년지도자·공무원 그룹)

한국청년은 때 마침 교과서문제로 양국이 흔들리고 있는 중의 일본 방문이었다. 방일전일본에 대한 인상은 한결같이 좋지 않다고 한다. 이러한 오해를 어떻게 풀어나가느냐란 것이 과제였다. 그래서 토교토내에서는 [일본속의 한국]에 주목했다. 그 중의 하나로서 토교한국인학교를 방문. 김교장님의 배려로 합숙세미나에 참가할 일본청년도 함께 수업을 참관했다. (주)롯데에서는 한국출신 경영자가 이국땅에서 일본을 대표하는 식품메이커로서 부동의 치위를 확보한 것에 감탄했다. 그리고 제일한국인을 빼고 진정한 우호가 있을 수 없기 때문에 한국민단청년회를 방문. 성장과정과 일본과 한국 사이에서 살고있는 현황을 설명받았다. 윤단장님이 기자단 앞에서 말씀하신 [비온 뒤에 땅이 굳는다]란 말대로 양국이 서로 진정한 모습을 봄으로서 오해가 불식되었다고 생각한다.

한국청년초청사업은 이번으로 15년역사의 막을 내렸지만 일한의 우정은 한층 더 깊어진 것으로 확신한다.

### 한국청년을 받아들여서

후쿠키 테쓰지

(나가사키현 세계청년친구회 : 청년지도자·공무원 그룹)

이번에 교과서문제를 둘러싸고 민간의 상호교류사업이 중지된 가운데, 청년지도자·공무원 그룹을 맞이했다. 지방 프로그램의 성공열쇠는 홈스테이에 있다고 하는데, 이번 교과서문제로 호스트가 모아질까라는 걱정도 쓸데 없는 기우였다. 이웃사람이 아닌 아들과 딸로서 자연스러운 대응이 어느새 벽을 없애고 자기 자식에 이야기하는 것처럼, 그리고 청년도 자기 가족에게 이야기하는 것처럼 깊은 인연을 맺을 수 있었다고 느꼈다. 헤어질 때, 많은 청년이 [어머니][아리가도우 고자이마시다]라고 말하였다. 몇 번이나 인사하는 모습을 볼 때, 사람과 사람과의 만남의 기쁨을 몸소 느낄 수 있었다. 그리고 지금까지 느껴보지 못하였던 감동이 복 받쳤다. 사람과 만나는 감동과 기쁨을 이 사업을 통하여 알게 된 것은 일한교류가 영원히 계속되는 초석이라는 것도 확인할 수 있었다. 그리고 우리 지역에 이 일은 항상 살아있다. [아이토와 친구바이(저 사람하고는 친구다)]란 방언이 경쾌하고 기분 좋게 내 귀에 남는다.

## 어른을 소중하게 여기는 사랑스러운 청년들

시이키 미즈에

((재)일본 유스호스텔협회 : 근로청년 그룹)

한국이 ODA 대상국에서 졸업한 것은 최근의 경제발전이 일본을 능가하는 사실에서 보면 당연하다고 생각하는 한편, 오늘날 까지 역사나 문화에서 깊은 관계를 갖고 있으면서도 아직도 오해가 남아 있는 이웃 사람과의 청년교류의 중요성이 한층 더 강하게 느낀다.

처음에는 공무원·청년지도자가 많았기 때문인지 '제멋 대로이며 자기 주장이 강한 민족'이란 인상였으나 양호학교교원, 근로청년 등 폭 넓은 분야의 청년과 접하는 기간 동안에 '튼튼하고 밝은 라틴 계통의 사랑스러운 청년'으로 변해갔다.

합숙에서 흥겨운 나머지 밤중에 씨름을 하여 그 자리가 바로 관리인의 침실 위였기 때문에 야단을 맞은 청년들. 뜻 밖의 생일파티에 자기도 모르게 따라 울은 고분고분하지 못했던 근로청년의 그 후 웃는 얼굴. 한국으로 청년을 만나러 가고 [또 다시 가겠습니다.] 라고 기뻐하면서 말하는 우리 협회의 프로그램 코디네이터를 맡은 직원. 왠지 웃는 얼굴만 생각이 나서 오늘까지 쌓아올린 소중한 것이 끊어지는 외로움을 느낀다.

## 청년 초청 사업

나카지마 마사요시

(아시아지역 근로청년초청사업 타테바야시 실행위원회 : 근로청년 그룹)

### ①청년에게 전달하고 싶었던 것

보도 등으로 일본에 대하여 알고 방일하실 것이라고 생각하였습시다만 보도라는 것은 한정된 지면, 시간 등의 제약 밑에서 행하여지고 있기 때문에 일본의 [지방]에 대하여 있는 그대로의 모습을 피부로 느끼시고, 타테바야시 시민이 얼마나 한국과의 교류를 원하고 있는가 알아 주셨으면 좋겠다고 생각했습니다.

### ②꾼방문시의 에피소드 등

일본에 거주하는 한국청년의 의견에 따라 사이타마의 월드컵 스타디엄 견학을 준비 했습시다만 교통사정으로 인하여 도착까지 예정보다 시간이 걸렸습니다.

처음으로 한국청년을 담당하여 예상 못했던 사고, 교통의 정체 등 여러가지로 한국청년에게 폐를 끼친 면도 있습니다만, 지방의 실정을 어느 정도 이해해주셨으리라 생각하고 타테바야시 시민도 한국청년과 교류할 수 있어서 매우 유익했습니다.

내년에는 타테바야시의 청년, 호스트패밀리를 한국에 파견하여 한층 더 교류를 도모하고 싶습니다.

## 교류의 소감

사이 코오젠

((재)공립 국제 교류 장학 재단 : 교원 그룹)

이번에 담당한 연수는 많이 전학하고, 많은 사람과 만나며, 여기에 기재할 수 없을 정도 많은 것을 경험하고, 공부할 수 있었던 것 같다. 그 중에서도 가장 기억에 남은 것은 합숙세미나에서 돌아온 후의 일이 었다. 합숙세미나에서 돌아오는 버스안에서 다음 프로그램 일정을 들었던 일본인 참가자 교사 2명이 아사쿠사 전학시 에 일부러 찾아와서 안내를 해 주었다. 환송파티에서도 다른 참가자와 함께 참가했다. 한국 선생님들의 친한 친구와 제회한 것처럼 기쁜 미소가 아주 인상적이 었다. 그리고 다른 참가자 교사도 바쁘신데도 불구하고 합숙세미나에서 찍은 109장의 추억 사진이 들어 있는 CD-ROM을 만들어 25명의 한국교원 전원에게 선물했다. 청년들은 일본에서의 멋진 체험과 추억을 가져갈 수 있었다. 이러한 일본측 참가 교사분들의 친절과 여러가지 따뜻한 배려가 한국청년들의 일본에 대한 오해가 풀리고 진심으로 일본을 이해하는 계기가 되었다. 앞으로 이것을 계기로 일한관계가 더욱 더 발전하여 서로를 진정으로 이해하게 될 것이다.

## 가깝고 가까운 나라 한국

나가다 마사유키

((재)후쿠이현 국제교류협회 : 교원 그룹)

교과서문제로 한일관계가 어색한 가운데 한국청년 일행은 밝고 건강한 모습으로 후쿠이를 찾아왔다. 후쿠이에서는 현내 실업계고등학교 교육의 현황 등을 이해하기 위해, 현교육청 고교교육과 직원의 강의나, 상업계와 공업계 고등학교 전학과 교원들과의 질의응답 등 실시했다. 그 밖의 후쿠이의 문화소개로서 [에치젠화지] 만들기 체험도 했다.

청년들의 제일의 관심사는 홈스테이였다. 호스트패밀리와 대면하는 시간이 가까와지자 청년들은 긴장과 불안으로 가득했다. 그러나 홈스테이를 끝마치고 돌아왔을 때는 모두 웃는 표정이었으며, 호스트패밀리와 사이좋게 지낼수 있었다는 것을 한 눈에 알 수 있었다. 앞으로도 이메일 등을 통해 교류를 계속하겠다는 사람도 있다.

여름방학중이었기 때문에, 청년들은 학생들이 열심히 동아리활동을 하는 모습을 보고 감탄했으며, 일부분이기는하나 한일간의 학생들의 차이점도 느꼈으리라 생각한다.

## 한일간의 가교로

오오모토 유우코

((재)세계 청소년 교류협회 : 학생 그룹)

한국의 예술계 대학생을 담당하는 것이 결정되자 전학, 연수하는 자리에 고민했다. 학생들의 전공이 너무나 광범했기 때문이다. 생각 끝에 일본의 예술, 문화를 폭넓게 소개하는 프로그램을 만들었다. 일본 전통음악 감상, 꽃꽂이 체험, 가부키 감상, 키모노미술관 견학 등 일본에 체재하지 않으면 경험할 수 없는 것을 많이 준비했다. 청년들의 반응은 여러가지였으며, 모두 좋은 평가를 받은 것은 아니다. 청년들 가운데는 방일감정이 강한 학생도 있었다. 그러나 다시 한번 연수에서 체험한 것을 돌이켜 봐 주셨으면 한다. 그들은 합숙세미나, 홈스테이를 거쳐 일본인과의 우정을 쌓아, 종전보다 일본을 이해했을 것이다. 몇년 후 이번에 방일한 청년 중에서 한일간 예술분야의 가교역할을 할 사람이 나오기를 기대한다.

## 훌륭한 학생들에게 감사

다카마쓰 세이시

((재)센다이 YMCA : 학생 그룹)

당회에서 실시된 국제교류·이해 프로그램과 다름 없이 호스피탈리티의 정신(여행자를 친절하고  
공손하게 대접한다)으로 실시했다. 오랜 일본의 습관이나 문화가 남은 동북지방에서의 교류, 센다  
이 사투리, 그리고 YMCA 에 모인 볼런티어학생 과의 교류 자리를 마련할 수 있게 되어 감사하다.

제험을 포함한 연수(코케시의 색칠)는 청년들에게 호평을 받았다. 장인 선생님의 설명을 통역 못  
하는 장면도 있어서 유쾌했다. 예술계학생이라는 것도 있어서 [내 제자가 되지 않겠어? 한번 귀국한  
후 라도 좋으니까]란 말을 듣는 정도 색칠의 솜씨가 뛰어난 학생도 있었다. 그러나 반면에 관청이나  
대학방문은 반응이 안좋았다. 여름방학중의 대학방문은 어려웠으나 현지사님의 인격에는 온화해진  
것 같았다.

---

青年招へい事業 一韓国一[交流レポート](2001)

청년 초청 사업 一한국一[교류 보고서](2001)

平成14年 3月31日

発行 国際協力事業団国内事業部研修業務課

발행 Training and Youth Invitation Division  
Domestic Partnership and Training Department  
Japan International Cooperation Agency

〒151-8558 東京都渋谷区代々木 2丁目1-1

新宿マインズタワー

주소 SHINJUKU MAYNDS TOWER  
2-1-1, Yoyogi, Shibuya-ku, Tokyo 151-8558 Japan  
Phone (03) 5352-5401~3

編集 (財)日本国際協力センター 国際交流部

편집 Japan International Cooperation Center  
International Exchanges Department

〒163-0489 東京都新宿区西新宿2-1-1

新宿三井ビル

주소 Shinjuku Mitsui Bldg.  
2-1-1, Nishi-Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 163-0489 Japan  
Phone (03) 5322-2571

---

無断転載を禁じます。

무단전재를 금함.

